

ねりまの文化財

文化財に親しもう！ 東京文化財ウィーク 2006

今年も秋に東京文化財ウィークが開催されます。

東京文化財ウィークは、文化財を身近に感じていただくため「文化財保護強調週間」に合わせて、都内各地にある文化財を一齐に公開し、文化財関連事業を集中的に実施するものです。

実施期間は、
・公開事業 11月3日(金・祝)から11月12日(日)まで、

・企画事業 10月1日(日)から11月30日(木)までです。

練馬区では企画事業として、

★10月20日(金) 実施

練馬区独立60周年記念

「昭和初期の」リードオルガンコンサート(会場 練馬文化センター)

★11月5日(日) 実施

「石神井城跡巡りと発掘パネル展」

★区民ボランティアによる「ねりまの文化財めぐり」

などを実施します。

それぞれの事業内容は、2頁から5頁に掲載しました。是非ご参加ください。

公開事業では区内の国及び都の指定文化財が公開されます。練馬区は平成16年度に東京都指定文化財になった、★「丸山東遺跡方形周溝墓出土品」公開などを行います。(詳細は4頁をご覧ください。)

その他区内の見学できる文化財情報を5頁でいろいろご紹介しました。資料としてご利用ください。

なお、東京文化財ウィーク全体の事業内容を詳しく記載した「文化財ウィーク2006ガイド」は、9月下旬に、練馬区教育委員会 文化財係・練馬区郷土資料室(石神井図書館地階)などで配布予定です。また同じ内容が

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1

東京都教育委員会のホームページにも掲載されます。練馬区以外の事業でも参加できますので興味のある方は是非こちらをご覧ください。

本号で紹介の「リードオルガンコンサート」は、ねりま区報9月1日号に、「文化財めぐり」や「石神井城跡巡り」の参加方法などは、ねりま区報10月11日号に掲載します。



昨年の文化財めぐり(大泉学園駅出発コース)

第18回練馬区伝統工芸展 〜練馬に活きる

伝統技術を受け継ぐ職人の地道な努力によって支えられてきた伝統工芸。その作品の一つひとつに、練馬に活き続ける江戸の心と技が込められています。

使い捨ての生活様式になった現代でも、工芸品は生活に潤いを与え、優美さや奥深さを改めて認識させてくれます。

この機会に、練馬の伝統工芸にぜひ触れてみてください。

▽とき 10月27日(金)〜29日(日)

午前10時〜午後5時

▽ところ 石神井公園区民交流センター

(ビアレスA棟2・3階)

▽西武池袋線「石神井公園駅」

北口下車 徒歩1分

▽主催 練馬区伝統工芸会

▽後援 練馬区・練馬区教育委員会



わがまち再発見

ねりまの文化財めぐり

●富士見台駅出発コース

千川上水の今と昔を訪ねる

- ◎ 実施日 10月26日(木)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・富士見台駅南口
終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 浅間神社
- ◎ (最寄り駅 江古田駅)
- ◎ 定員 60名
- ◎ コース概略 九頭竜弁天↓中村橋跡↓中村分水口跡↓中新井分水口跡↓筋違橋跡↓旧清戸道↓桜の碑↓下練馬分水口跡↓浅間神社・千川堤植桜楓碑(約4.5km)



千川堤植桜楓碑

●北町あおば公園出発コース

旧下練馬村を往く

- ◎ 実施日 10月29日(日)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・北町あおば公園(北町2-41、東武練馬駅南口徒歩約5分)
- ◎ 終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 氷川神社
- ◎ (最寄り駅 氷川台駅)
- ◎ 定員 45名
- ◎ コース概略 北町観音堂↓千川家の墓(阿弥陀堂)↓綱吉御殿跡碑↓下練馬の富士塚↓棚橋跡↓安楽子育て地蔵↓金乗院↓円明院↓莊厳寺↓光伝寺↓氷川神社(約4km)



下練馬の富士塚

●郷土資料室出発コース

豊島氏の興亡を石神井城跡に見る

- ◎ 実施日 11月3日(金・祝)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時 午後1時30分
- ◎ (A、B共に郷土資料室)
- ◎ (A、B共に同じ内容)
- ◎ 終了予定時間 午後4時30分
- ◎ (A)正午 (B)午後4時30分
- ◎ 解散場所 郷土資料室
- ◎ (最寄り駅 石神井公園駅)
- ◎ 定員 (A・B)各30名
- ◎ コース概略 池淵史跡公園↓禪定院↓道場寺↓城山遺跡↓氷川神社・豊島氏奉納の石燈籠↓三宝寺↓石神井城跡↓殿塚・姫塚(約4km)



豊島氏奉納の石燈籠

●上井草駅出発コース

旧下石神井村の佇まいを今に残す伊保ヶ谷戸を往く

- ◎ 実施日 11月9日(木)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・上井草駅北口
- ◎ 終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 記念庭園(石神井公園内・最寄り駅 石神井公園駅)
- ◎ 定員 60名
- ◎ コース概略 馬頭観音↓御嶽神社↓上久保不動尊↓天祖神社↓丸彫青面金剛庚申塔↓甘藍の碑↓池淵史跡公園↓禪定院↓記念庭園(約4km)



丸彫青面金剛庚申塔

・申込方法 往復はがきに、①住所・②氏名・③電話番号・④希望のコースをご記入のうえ、各実施日の10日前までにお申込ください。
 (複数コースご希望の場合、1コースにつき1枚の往復はがきが必要です。)
 (※希望者多数の場合は抽選します。)
 ・参加費 1コースごとに保険料10円を当日集めます。
 ・申込先 練馬区郷土資料室 〒177-0045 練馬区石神井台1-16-31
 電話03-3996-0563 (月曜休室)



田柄用水記念碑



田柄用水跡



滝滑り跡

●光が丘駅出発コース

田柄用水の痕跡を訪ねて
光が丘から東武練馬まで

- ◎ 実施日 11月17日(金)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・光が丘駅
- ◎ (区民センター前・郵便局横)
- ◎ 終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 田柄川緑道北町2丁目
付近(最寄り駅 東武練馬駅)
- ◎ 定員 45名
- ◎ コース概略 上野家長屋門↓元禄
庚申塔↓天祖神社・田柄用水記念
碑↓阿弥陀堂↓愛宕神社↓水川神
社↓田柄川緑道(約4km)

●上石神井駅出発コース

城攻めから田柄用水の跡まで、
旧上石神井村歴史縦断

- ◎ 実施日 11月19日(日)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・上石神井駅北口
- ◎ 終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 西武車庫バス停付近
(石神井台5丁目・最寄り駅
石神井公園駅)
- ◎ 定員 60名
- ◎ コース概略 扇山遺跡↓馬頭観音
↓旧智山学校跡↓石神井城跡↓水
川神社↓旧所沢道↓庚申塚↓沼辺
地蔵↓けやき憩いの森↓田柄用水
跡(約3km)

●石神井公園コース

石神井公園の成立と風致地区

- ◎ 実施日 11月22日(水)
- ◎ 集合時間・場所
午前9時・石神井公園駅南口
- ◎ 終了予定時間 午後0時30分
- ◎ 解散場所 石神井池東側付近
(最寄り駅 石神井公園駅)
- ◎ 定員 60名
- ◎ コース概略 和田堀緑道↓石神井
池↓第二豊田園跡↓三宝寺池↓滝
滑り跡↓豊島館・武蔵野館跡↓水
天宮・巖島神社・穴弁天↓新東京
名勝記念碑↓水辺観察園(約3km)

わがまち再発見
「ねりまの文化財めぐり」は
区民ボランティアの方々が企画、
立案を含め実施全般を担当する事
業です。

コースを考え、解説の練習をして、
しおりや資料を手作りします。
ご参加なさる方々が楽しく文化財
に親しめるように日々研究を重ね実
施準備を進めています。

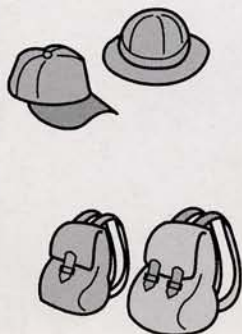
また、実施当日は文化財の解説や
交通整理などで大忙しです。

おかげさまで毎年この事業は、多
くの区民の皆様からご好評をいた
だき「もっと回数を増やして欲しい」
とのご意見をいただいています。

今回は、7コース実施いたします。
お好みのコースが見つかりましたら
郷土資料室へ往復ハガキでお申込み
ください。(ねりま区報10月11日号
にも掲載しています。)

区民ボランティアの解説を聞きな
がら楽しくみんなで文化財に親しみ
ましょう!!

ご参加お待ちしております。



石神井城跡巡りと発掘パネル展

都立石神井公園には、中世の豊島氏の居城であった石神井城跡があります。石神井城は北を三宝寺池、南を石神井川にはさまれた舌状台地に築城されました。築城の年代は不明ですが、13世紀の古文書に、豊島氏が石神井郷を支配していたことが記載されています。豊島氏は、石神井川流域に所領を拡大し、平塚城(現北区)や練馬城を、室町時代には石神井城を居城としていました。

中世の城は、土塁と堀で築城されています。石神井城跡の構造解明のため、平成10年から6年間、区民参加により、発掘調査を実施しました。その結果、堀の構造は箱堀で規模は上幅12m前後、堀の上面からの深さが約6m、土塁の上から測ると8mを超える深さであったことが判明しました。

今年も発掘調査成果とともに、出土品を公開します。堀や土塁の土層や地下式坑の写真パネルの他に、今年には区内の中世遺跡の調査、練馬城跡や愛宕山塁、丸山東遺跡などの出土品も展示いたします。

また、城の主郭や、外郭を解説員と一緒に巡る石神井城跡巡りでは、ご自分の足で石神井城跡の大きさを実感していただきます。是非ご参加ください。

【日時】 11月5日(日) 荒天中止
午前10時30分～午後3時まで
随時催行

【場所】 都立石神井公園 石神井城跡
(三宝寺池南側、氷川神社東側) 他

【交通】 石神井公園駅(西武池袋線)
下車徒歩15分

【申込み】 事前申込み不要。当日現地で(無料)

【問合せ】 練馬区教育委員会 文化財係
TEL 598412442 (直通)



東京都指定文化財 「丸山東遺跡方形周溝墓出土品」公開

丸山東遺跡は、大泉町3、4丁目に所在し、外かん道路建設に先立って発掘調査が行われた遺跡です。発掘は平成3～4年に行なわれ、今から一万二〇〇〇年以上前の旧石器時代から近世までの遺跡であることがわかりました。

東京都指定文化財は、方形周溝墓から出土した今から約一八〇〇年前の弥生式土器・ガラス玉・管玉(クダダマ)・鉄剣です。弥生時代後期後半の遺物で副葬品などとして埋められていたものです。ガラス玉・管玉は今もなお、色鮮やかな藍・青色をしており首飾りと考えられます。鉄剣は、銘はありませんが、基部近くに2つの穿孔があります。このガラス玉・管玉と鉄剣という副葬品の組み合わせは都内でも大変珍しいものです。

【会場】 練馬区郷土資料室
(石神井図書館地階)

石神井台1-16-31
TEL 399610563

【日時】 11月3日(金・祝日)
12日(日)

(月曜日は休室)
午前9時～午後5時



弥生式土器



ガラス玉・管玉



鉄剣

その他の公開される 区内にある国指定文化財・都指定文化財

◆ 尾崎遺跡 (都指定史跡)

春日小学校建設にあたって、昭和54・55年に発掘調査された旧石器時代から近世までの複合遺跡です。旧石器時代でも古い時期の石器である局部磨製石斧やナイフ形石器、縄文時代の丸底や尖底の土器、中近世の陶磁器などの出土品が展示室でご覧になれます。

【所在地】春日町5-12-1

春日小学校内

【交通】練馬春日町駅(都営大江戸線)下車徒歩8分

【公開時間】土曜・日曜・祝日

午前10時～午後4時

☆校内に立入る際は、必ず学校受付にお申し出て下さい。

◆ 尾崎遺跡出土品解説会

11月12日(日)

午前10時30分～午後2時

☆学芸員が展示物の解説を行います。

※出土品は区指定文化財です。



◆ 練馬白山神社の大ケヤキ (国指定天然記念物)

白山神社の大ケヤキは2本あり、いずれも樹齢約900年と推定される、幹回りが7mを超える全国でも有数の巨木です。源義家が永保3年(一〇八三)、「後三年の役」で東北遠征の際、戦勝を祈願して苗を奉納したという言い伝えがあります。

【所在地】練馬4-1-2 白山神社境内

【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車徒歩5分

◆ 小野蘭山墓 (都指定旧跡)

小野蘭山(一七二九～一八一〇)は江戸中期に活躍した本草学(博物学)者で、その講義をまとめた「本草綱目啓蒙」48巻は、わが国最大の本草学の文献といわれています。大正12年の関東大震災の罹災により浅草から現在地に移転しました。

【所在地】練馬4-27 迎接院墓地内(十一ヶ寺墓地内)

【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車徒歩5分

【公開時間】午前9時～午後4時

◆ 石神井城跡及び三宝寺池 (都指定旧跡)

三宝寺池は武蔵野三大湧水池の一つで、石神井川の水源の一つにもなっていました。三宝寺池南側の台地に石神井城跡があります。南側を石神井川に挟まれた要害の地でした。石神井城は中世このあたりを支配していた豊島氏の城で、太田道灌に攻められ一四七七年に落城しました。

東京文化財ウィーク期間中(11月3日～12日)は主郭部分を公開し発掘調査成果のパネルを展示しています!

【所在地】石神井台1丁目他 都立石神井公園内

【交通】石神井公園駅(西武池袋線)下車徒歩15分

【公開時間】午前9時30分～午後4時30分

◆ 三宝寺池沼沢植物群落 (国指定天然記念物)

三宝寺池の中央、「中の島」周辺が指定範囲となっています。コウホネ、ミズガシワ、ハンゲシヨウ、カキツバタなどの水生植物を中心に、貴重な植物相がみられます。

(所在地などは、右記に同じ)

(☆お願い) 文化財を訪れる際には、所有者や周囲の人の迷惑にならないように注意してください。

練馬区独立60周年記念 「昭和初期の」 リードオルガンコンサート

区登録文化財「石神井西尋常小学校のリードオルガン」で、コンサートをを行います。足踏みオルガンと歌やチェロとの美しいハーモニーをお楽しみください。

【日時】10月20日(金)午後6時30分～午後8時(開場午後6時)

【会場】練馬文化センター小ホール(練馬1-17-37)

【出演】相田南穂子、青木洋也、伊藤園子、工藤昭義

【入場料】600円(大人同伴の小学生以下は無料)全席自由席

※入場券は①チケットぴあ(057010219999)、②練馬文化センター(399313311)、③イトーシンミュージック(355711720)でお求めください。②・③は窓口販売のみ。



なつかしい音色がよみがえる

東京都旧跡「小野蘭山墓」から墓誌が出土

小野蘭山（おのらんざん）墓は、昭和4年（一九二九）に東京都旧跡に指定されました。通称「十一ヶ寺」の迎接院（こうじょういん）墓地（練馬4-27）にあります。昨年12月に小野家の意向により、小野家累代の墓を永代集合供養墓に移動しました。文化財に指定されている小野蘭山墓は、南に5mほどの区画に移動しましたが、その際に墓誌が出土しましたので紹介します。

小野蘭山墓移動の経緯

小野蘭山墓は、もとは浅草の迎接院にありました。迎接院は、浅草誓願寺（現在は府中市に移転）の塔頭（たっちゅう）でしたが、関東大震災で被災したため、昭和2年（一九二七）に現在地（練馬4-25）へ移転し一寺となり、小野蘭山墓も練馬の迎接院墓地に移転しました。

平成17年10月、累代の墓の移動に伴い、小野家から都指定文化財「小野蘭山墓」移動の現状変更申請書が提出されました。11月15日付けで東京都教育委員会が許可し、同年12月7日から8日に区教育委員会職員が工事に立会いました。

墓石の下を10cmほど掘り下げたところ、カロウト（石室）があり、その中には小野蘭山と思われる遺骨が埋葬されていました。蓋石には銘があり、墓誌であることが判明しました。遺骨は骨壺に納め、永代集合供養墓に移動しましたが、墓誌は、小野家累代の墓石と共に永代集合供養墓の傍らに移動しております。



出土した墓誌

出土した墓誌

墓誌は、縦104cm、横36cm、最大幅12cmの1枚と、縦103cm、横35cm、最大幅9cmの2枚からなります。墓誌は、明治から昭和初期の本草学の研究者である白井光太郎（木村陽二郎編『白井光太郎著作集 第VI巻』科学書院、平成2年）などが紹介しています。この度小野蘭山墓から墓誌の実物が出土したことになりました。

碑文を作成した井岡冽元泉（いおかれつげんせん）は、津山藩（岡山県）の侍医を務めた人物です。小野蘭山の門人として名高く、碑文からもその様子が伺えます。碑文には、小野蘭山の本草学への姿勢や、亡くなる直前の様子、死後の埋葬に至る経緯が記されています。また、小野蘭山が逝去した日は、文化7年（一八一〇）1月27日と言われているようですが、碑文には1月26日と刻まれており、これが事実だとすると1日早まることとなります。以下に墓誌銘の概要を紹介いたします。

蘭山小野先生墓碑銘（要約）

先生は、享保14年8月21日、京都の櫻樹街（おうじゅがい）で生まれました。幼い時から記憶力に優れ、人情に厚かったといひます。古典籍に通じていたので、松岡恕庵（まつおかじよあん）に師事して本草学を学びました。学問を修めるにつれ人格もさらに優れ、博学の評判が国内に知れ渡りました。寛政11年春、幕命により出仕し、医官の子弟に本草学を講じました。文化7年正月26日、82歳でなくなりました。先生の資質と博識は他に並ぶ者がいませんでした。

「本草綱目啓蒙」を世に出しました。その土地の名高い産物をこれほど網羅して分析した人は他にいなく、今までの間違いを改めたことで、本草学を大成させました。

先生は、闘病中も寝床の上で『廣参説』（こうじんせつ）を著しました。亡くなるその日まで氣力を振り絞って、傍に仕えている弟子を使って『廣参説』の校正をしました。私は、その傍に仕えていました。先生は、例示をしながらその意味を述べ、人に教えることで自らも勉強していました。先生の容貌はいきいきとして、老いても聡明で、親しみが感じられました。

私は、先生が七十余歳の時に常陸国や上野国の諸山へ採葉に赴いた際、随行しました。高い嶺を登り、険しい山を越え、血気盛んな若い者と異なりませんでした。

埋葬は、占い定めて3月某日とし、浅草誓願寺に葬りました。本草学を継いだ孫の鑑孝（もとたか）は、私に碑

文を記させました。

門人 井岡冽元泉謹撰并書

小野蘭山について

江戸時代の本草学者。本草学は中国では薬物学であったが、日本では博物学として発展した。

小野蘭山は延享元年（一七四四）、16歳で松岡恕庵から本草学を学ぶ。宝暦3年（一七五三）に私塾を開き、多くの弟子を輩出した。寛政11年（一七九九）71歳で江戸に移り、幕府の医学館で本草学を講じた。享保元年（一八〇一）から文化2年（一八〇五）まで、幕府の命で諸国へ採葉旅行に行き、その結果を書物にまとめている。特に、享和3年（一八〇三）出版の『本草綱目啓蒙』は、後の博物学の発達にも大きな影響を与えた。



移設された小野蘭山墓

◎小野蘭山墓への行き方

- ・場所 練馬4-27 迎接院墓地
- ・交通 西武豊島線・都営大江戸線 豊島園駅下車 徒歩5分

文化財を次代に伝える

文化財保護推進員の活動にご協力を！

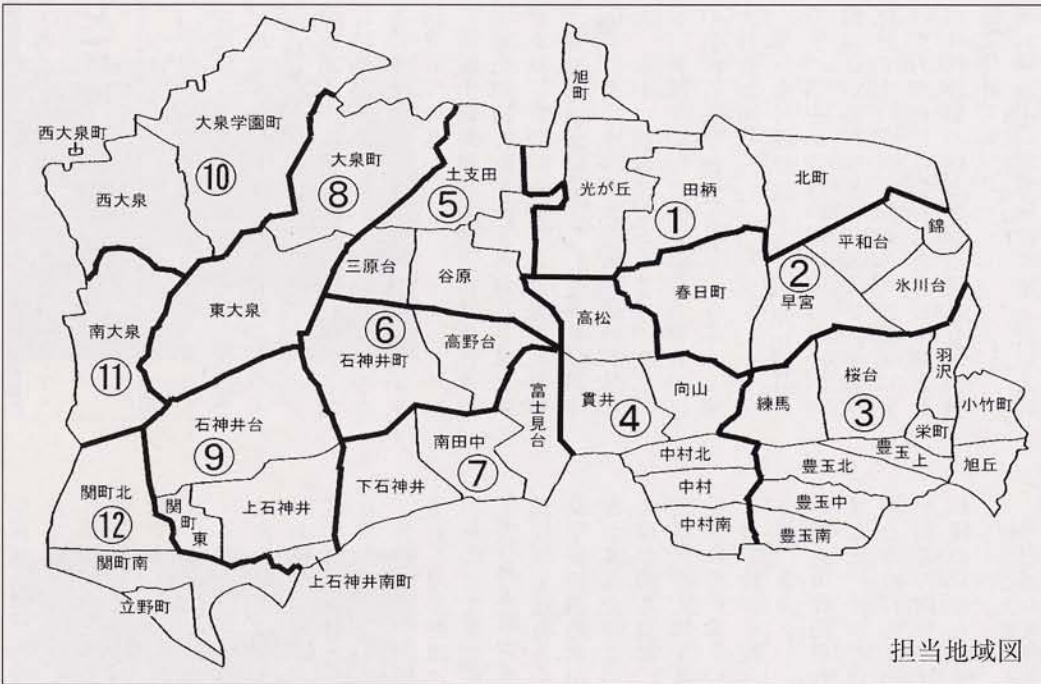
第10期推進員をご紹介します。
よろしくお願ひします。

文化財保護推進員制度は、練馬区文化財保護条例に基づき、昭和63年に設置されました。任期は2年間です。今期は平成18年4月からの第10期目です。飯田静江氏が新しく就任され11名が再任されました。

推進員は下記の12に分けられた区内の各地域を担当し、文化財保護のため日々巡回、調査、お声かけなどの地道な活動を行っています。

また、区が実施する様々な文化財関連事業にもご協力をいただき、文化財保護の考えを広める役割も担っています。

私たちの身近な文化財を守り、次代に伝えていくために、大変重要な役割を担っている推進員活動にどうぞご理解とご協力をお願いいたします。



担当地域図

①田澤 健男  (再任)	②飯田 静江  (新任)	③鈴木 曹元  (再任)	④佐藤 光治  (再任)	⑤鷺田 芳夫  (再任)	⑥須賀 頼子  (再任)
⑦蛭川 葉子  (再任)	⑧徳川 達子  (再任)	⑨長坂 淳子  (再任)	⑩奥野 雅司  (再任)	⑪荒井 道子  (再任)	⑫鈴木 義範  (再任)